

政策分析シート（平成20年度）

政策名	伝統文化の継承と都市間交流の推進	政策No	09	部名 区民生活部 部長名 佐藤安夫	内線 2500		
関連部名	教育委員会						
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]					
目的	区民が優れた芸術文化に触れる機会を拡充するとともに、区民の自主的な文化活動を促進する。また、国内・海外都市との幅広い交流をとおして、荒川区への愛着や多文化共生意識を醸成し、活力に満ちた地域社会の実現を目指す。併せて、区内に伝わる有形・無形の文化財を保存し、継承する。						
指標	政策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (28年度)	
	芸術・文化活動の状況	-	-	21.7%	-	30%	自ら芸術文化活動を行っている区民の割合
	芸術文化に対する意識	-	-	-	-	80%	荒川区の芸術文化振興に関する取り組みや文化施設に対する満足度
	交流都市に対する区民の認知度	-	-	-	-	50%	イベント等の機会を利用し、調査を行う。
	交流事業の認知度と評価	-	-	-	-	50%	同上
	荒川ふるさと文化館利用者数	21,748	22,138	20,451	24,000	25,000	展示室観覧者 + 郷土学習室利用者
現状と課題（指標分析）	1 区民が優れた芸術文化に身近なところでふれ、親しめるよう、区内の文化施設で文化芸術事業を実施するとともに、活動の場や機会の提供、活動費の補助等を行い、区民の自主的活動を支援している。 2 荒川区の芸術文化振興にあたり、「荒川区芸術文化振興プラン」を策定したうえで、区とACCとの役割分担を明確にし、連携のとれた芸術文化事業の推進を目指す必要がある。 3 現在、国内18都市、海外4都市との交流があるが、その度合、態様には差がある。各都市の特性を把握し、相互補完的な交流をすることにより、荒川区にはない文化や自然環境を区民に提供し、より豊かな区民生活の実現を目指す。 4 荒川ふるさと文化館は、荒川区の歴史や文化について、児童・生徒を始め、多くの区民に正しく伝え、郷土に対する誇りと愛着を持ってもらうために必要不可欠である。荒川区の歴史や文化についてより深く理解してもらうために、企画展示等の事業について検討する必要がある。						
今後の方向性	《今までの成果及び指標分析を踏まえて》 荒川区芸術文化振興プランを策定し、区の芸術文化振興施策の方向性を整理したうえで、地域の活性化と魅力ある地域づくりを推進する。 区民の芸術文化活動への取り組みやその意識等について、今後の確な現状把握に努めるとともに、区の芸術文化振興に関する取り組み等について周知を図っていく。 交流都市や交流事業について、今後区民の認知度の的確な現状把握に努めるとともに、ホームページの充実や交流事業等を通じて周知を図っていく。 交流都市への区民の訪問について、区内の各種団体において国内外の交流都市との継続的交流事業が実施できるよう支援体制を整備し、相互の交流を活性化する。 荒川ふるさと文化館について、大規模博物館にはない地域の郷土資料館ならではの特性を生かした企画展を開催し、区の魅力を発信していく。						

政策を構成する施策の分類			
施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	前年度設定	今年度設定	
芸術・文化の振興[09-01]	重点的に推進	重点的に推進	区のイメージや文化度はまちの魅力の大きな要素である。自治体間競争が厳しさを増す中、国際交流の視点も取り入れた、より総合的で戦略的な芸術文化施策が望まれる。
国内・海外都市との交流の推進[09-02]	重点的に推進	重点的に推進	区民の国際理解のために欠かせない施策であるとともに、地域住民の生活環境の相互補完や文化の振興という観点からも、重要な役割を担っている。
伝統的文化の保存と継承[09-03]	継続	継続	荒川区の歴史や文化を伝える文化財、史跡、伝統的工芸技術を保存・継承していくことは重要であるため、継続して実施する。